

# 経済・金融 フラッシュ

## 中国経済：来週の注目ポイント ～8%成長への復帰はなるか？など3つの注目点

経済調査部門 上席主任研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

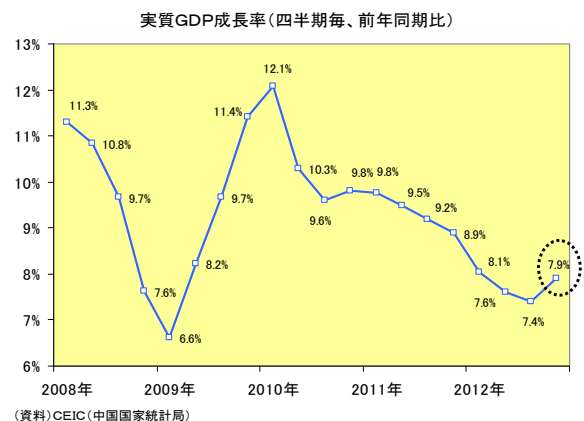
- 中国では、来週 15 日（月）に 1-3 月期の国内総生産（GDP）が発表される。中国経済は海外経済の低迷や内需の不振を受けて長らく減速傾向にあったが、昨年 10-12 月期の実質 GDP 成長率が前年同期比 7.9%と前四半期の同 7.4%を上回るなど、昨年後半には景気回復が鮮明になってきた。年明け後の統計を見ると、消費は勢いに欠けるものの輸出・投資を牽引役に回復基調を維持しており、今回発表される 1-3 月期は 8%程度と前四半期をやや上回ると予想している。
- また、今回の発表では、「前期比で 2%以上の成長が持続するか」、「第三次産業が第二次産業の伸びを上回るか」の 2つのポイントにも注目したい。

### ○来週発表予定の経済指標

発表 予定日	経済指標	当研究所の予測値		前回	
			対象期		対象期
4月15日	国内総生産(GDP) (前年同期比)	8.0%	2013年1-3月期	7.9%	2012年10-12月期
4月15日	工業生産(規模以上、付加価値ベース) (前年同期比)	10.0%	2013年3月	9.9%	2013年1-2月期
4月15日	小売売上高 (前年同期比)	12.8%	2013年3月	12.3%	2013年1-2月期
4月15日	固定資産投資(除く農家の投資) (前年同期比)	20.9%	2013年1-3月期	21.2%	2013年1-2月期

中国国家统计局は、15 日（月）に 1-3 月期の国内総生産（GDP）を発表する予定である。中国経済は海外経済の低迷や内需の不振を受けて長らく減速傾向にあったが、昨年 10-12 月期の実質 GDP 成長率が前年同期比 7.9%と前四半期の同 7.4%を上回るなど、昨年後半には景気回復が鮮明になってきた（図表-1）。年明け後の統計を見ると、個人消費の代表指標である小売売上高は前年同期比 12.3%増（1-2 月期）と昨年の前年比 14.3%増を下回ったものの、輸出は前年同期比 18.4%増（1-3 月期）と昨年の前年比 7.9%増を大きく上回っており、投資の代表指標である固定資産投資（除く農家の投

（図表-1）

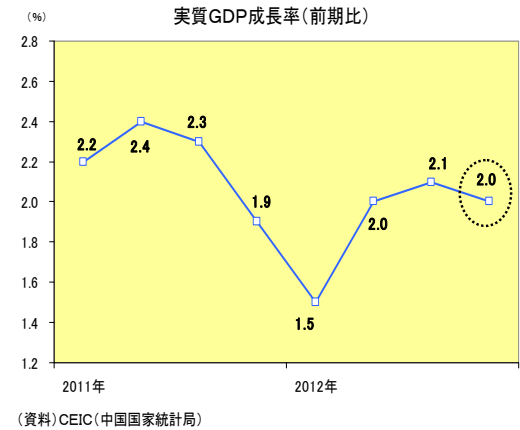


資)も前年同期比21.2%増(1-2月期)と昨年の前年比20.6%増を上回っている。このように中国経済は消費が冴えないなど勢いに欠けるものの、輸出・投資を牽引役に回復基調を維持しており、今年1-3月期の成長率は前年同期比8%程度へ伸びを高めると予想している。

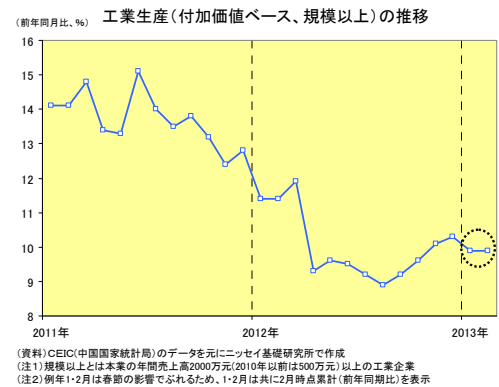
また、今回の発表では以下2つのポイントにも注目したい。まず、前期比で2%以上の成長が持続するか否かである。これまでの前期比の推移を見ると(図表-2)、中国経済は昨年1-3月期の前期比1.5%を底に3四半期連続で同2%を上回っており、年率換算すれば8%台の成長と思われるが、昨年10-12月期は前四半期の伸びを僅かながら下回った。もし、今回発表される前期比の伸びが前四半期(2%)を下回り2四半期連続で減速するようだと、回復持続に注意信号が灯りかねないだけに要注目である。

また、産業別の成長率にも注目したい。年明け後(1-2月期)の指標を見ると、工業生産(付加価値ベース)の伸びが鈍るなど第二次産業は冴えないが(図表-3)、第三次産業は事業活動指数が高位で推移するなど好調である。1-2月期の電力消費量を見ても、第二次産業は昨年の伸びを下回っているが第三次産業は上回っている(図表-4)。直近では3四半期連続で第三次産業が第二次産業の成長率を上回っており(図表-5)、今後は過剰生産設備を抱える第二次産業に代わって第三次産業が経済を牽引すると期待されることから、注目点のひとつといえるだろう。

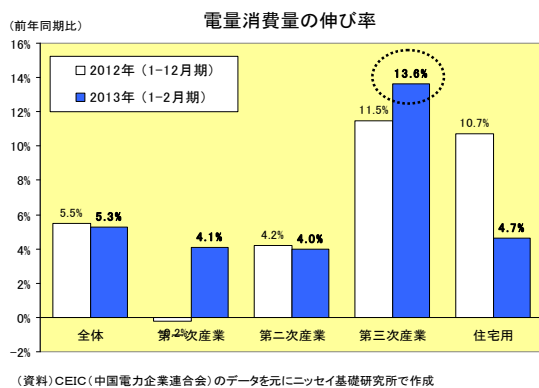
(図表-2)



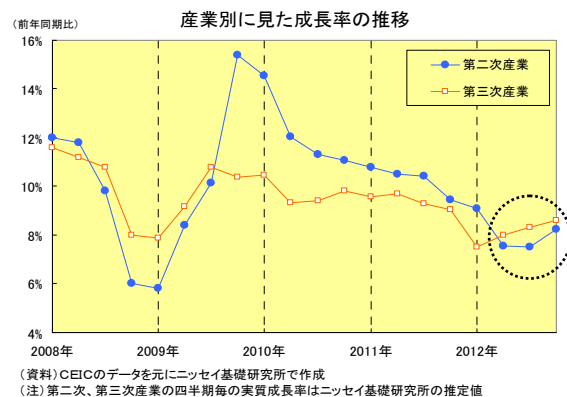
(図表-3)



(図表-4)



(図表-5)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。